

青銀油川支店 開業100周年

頭取に西田安逸 常務に西田亮

1918年 西田家を借り開業

油川米穀商組合が誘置に協力

瓦版おはま

瓦版おはま
第17号
令和元年5月20日
編集発行
木村慎一



明治15年(1872)の矢野田家 吳服太物店 安兵衛一八郎一亮 「蒙山人請森」H.20 県立郷土館より

青銀油川支店が開業百周年を迎え、先だって盛大な祝賀会に参列する機会があった。

支店の前身、弘前銀行油川出張所が開業したのは、大正七年(一九一八)十一月十五日。事務所は村長西田林八郎家邸内に置いた。同家の家業は、吳服太物(ふくもの)商。

翌八年、油川町制施行の年、出張所は昇格し支店となった。又、この年の八月三十一日、油川倉庫株式会社(社長津幡丈長)が、茶屋町に銀行事務所を新築、銀行に貸与した。同年八月十日十三日、県内中小銀行合併によって弘前銀行は五十九銀行となり、五十九銀行油川支店と改称した。

昭和十一年(一九三六)、銀行事務所は津幡丈長邸内に移転、以後、昭和三十八年(一九六三)、現在の支店建物ができた。二十七年間津幡家内で営業した。その間、昭和十八年(一九四三)には、県内中小銀行合併によって、五十九銀行支店は青森銀行油川支店と改称した。この年の銀行合併に大きく貢献した人は、西田林八郎(長男亮)の功績であった。彼は拓銀(株)の(から)支店長の経歴を持ち、昭和六年(一九三二)金融ハックに喘ぐ五十九銀行再建のための招かれ、常務取締役として敏腕をふるった。

現在の支店は昭和三十八年(一九六三)十月七日に落成。大正三十三番地、大正七年(一九一八)弘前銀行油川出張所としてスタートした記念すべき場所である。この時の頭取は西田安逸、油川出身のままに西田家の一族、落成式の挨拶で、「(一)は西田家先祖ゆかりの地、子孫の一人として新しく店舗を建てられ本望

町名標

〈第十七回あけぼの町の巻き〉

あけぼの町の町名標は、平成十六年(二〇〇四)八月三日、元氣町あぶらかわ街づくり委員会が建てた。

場所は羽白沢田七九番地、東流して来た油川川が右折して南流する地点、道路をはさんで向かい側の民家の地内に今も建っている。標文は次の通り。

朝のあけぼのを仰いで元氣よく一日をスタートさせよう、この気持をいつまでも持とうと、昭和五十年(一九七五)四七世帯が、元の日の出町から分かれて新しく発足した。

以来二八年を経、平成十五年には西五世帯が増えた。この辺りは西田沢村の田畑であったが、戦時中の昭和十八年頃(一九四三)旧青森飛行場が拡張され、その果のはずれにあつた。

あけぼの町は国鉄津軽線に沿った町。昭和四十年(一九六三)頃は線路の防壁がまたがらなかつた。田地から通勤する人達は田んぼ道をまっすぐ歩いて駅に來てつた。

この項終り

の至り、と述べたという。

時は大正半ば、好景気に湧いていた。油川では特に米穀商が好調で、預貯金ができる銀行の誘置に大きな貢献があった。